

# 平成20年度第1回日本海海況予報

## 1. 今後の見通し（2008年4月～6月）

- (1) 隠岐諸島北東、大和堆沖及び佐渡島北方の暖水域は、ほぼ停滞する。若狭湾沖の暖水域は、北東に移動する。山形沖の暖水域は北上する。男鹿半島沖及び津軽半島沖の暖水域は、北上した後消滅する。
- (2) 島根沖及び山陰・若狭沖の冷水域の張り出しは、平年並み。佐渡島沖及び入道埼沖の冷水域の張り出しは、やや弱い。
- (3) 対馬暖流域の表面水温は、“やや高め”で経過する。
- (4) 対馬暖流域の50m深水温は、日本海西部及び北部とも“やや高め”で経過する。

## 2. 経過（2007年11月～2008年2月）

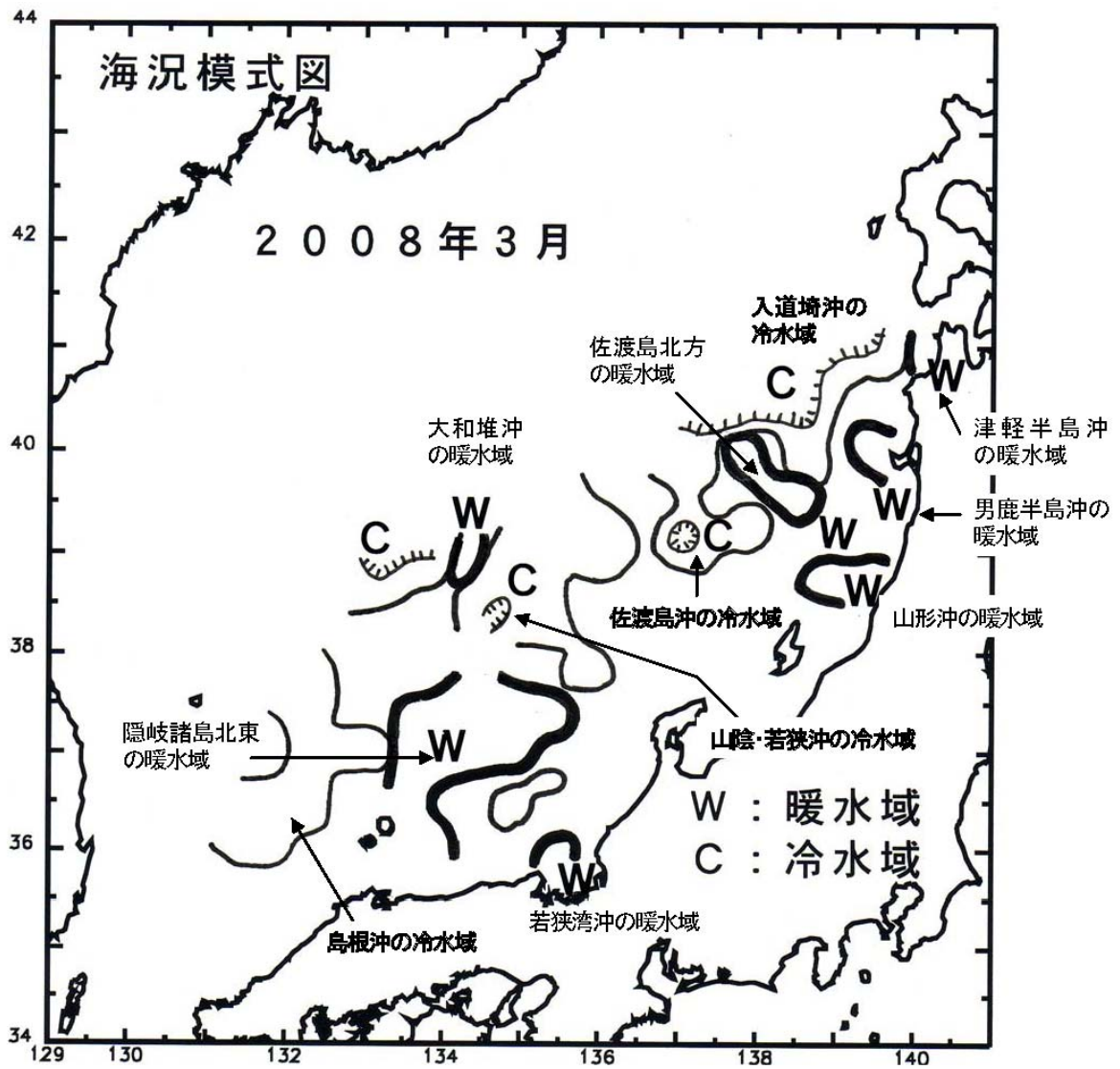
- (1) 11月に隠岐諸島北東でみられた暖水域は、ほぼ停滞。  
11月に佐渡島北方でみられた暖水域は、北西に移動。  
11月に山形沖でみられた暖水域は、北上。  
12月に佐渡島沖でみられた暖水域は、北上。  
12月に若狭湾沖で暖水域が発生。2月に艫作崎沖で暖水域を確認。
- (2) 島根沖及び入道埼沖の冷水域は、規模及び接岸状況とも平年並み。山陰・若狭沖の冷水域は、規模は小さく離岸。佐渡沖の冷水域は、規模は小さく接岸状況は平年並み（11月）。
- (3) 対馬暖流域の表面水温  
11月：ほぼ全域で“平年並み”～“やや高め”となり、大和堆沖、佐渡島沖及び渡島半島西方では“かなり高め”～“はなはだ高め”の海域が分布。  
12月：能登半島西方及び津軽半島西方で“かなり低め”～“はなはだ低め”の海域が分布するが、それ以外は概ね“平年並み”～“やや高め”。  
2月：津軽半島西方及び渡島半島西方で“やや低め”～“かなり低め”の海域が分布するが、それ以外は概ね“平年並み”～“やや高め”。
- (4) 対馬暖流域の50m深水温は、日本海西部及び北部とも“やや高め”（10～12月平均）。

## 3. 現況（2008年3月）

- (1) 暖水域は、隠岐諸島北東、大和堆沖、若狭湾沖、佐渡島北方、山形沖、男鹿半島沖及び津軽半島沖に分布。
- (2) 島根沖の冷水域は、規模及び接岸状況とも平年並み。山陰・若狭沖の冷水域は、規模は平年並みでやや接岸。佐渡島沖の冷水域は、規模は小さく離岸。入道埼沖の冷水域は、規模は小さくてやや離岸（3月）。
- (3) 対馬暖流域の表面水温は、概ね“平年並み”で、佐渡島北西海域では“やや高め”～“かなり高め”の海域が分布。
- (4) 対馬暖流域の50m深水温は、日本海西部及び北部とも“やや高め”（1～3月平均）。

（註）引用符（ ” ” ）で囲んで表した、平年比較の水温の高低の程度は以下のとおり

- ” はなはだ高め ” ： 約20年以上に1回の出現確率である2℃程度の高さ
- ” かなり高め ” ： 約10年に1回の出現確率である1.5℃程度の高さ
- ” やや高め ” ： 約4年に1回の出現確率である1℃程度の高さ
- ” 平年並み ” ： 約2年に1回の出現確率で、平年値±0.5℃程度の水温
- ” やや低め ” ： 約4年に1回の出現確率である1℃程度の低さ
- ” かなり低め ” ： 約10年に1回の出現確率である1.5℃程度の低さ
- ” はなはだ低め ” ： 約20年以上に1回の出現確率である2℃程度の低さ



2008年3月の海況模式図

## 参 画 機 関

北海道立中央水産試験場	京都府立海洋センター
青森県水産総合研究センター	兵庫県但馬水産技術センター
秋田県水産振興センター	鳥取県水産試験場
山形県水産試験場	島根県水産技術センター
新潟県水産海洋研究所	山口県水産研究センター
富山県水産試験場	社団法人 漁業情報サービスセンター
石川県水産総合センター	水産庁 増殖推進部 漁場資源課
福井県水産試験場	独立行政法人 水産総合研究センター 日本海区水産研究所